

平成 30 年度授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 成果報告書

| | |
|-----------|----|
| 校長・准校長サイン | 名前 |
|-----------|----|

| | |
|---------------|----|
| 学校名 府立東住吉高等学校 | 名前 |
|---------------|----|

1 学校教育目標（めざす生徒像）

- 1 第一志望以上の進路を実現する確かな学力を養成する。
- 2 さまざまな自主活動の体験を通して、しっかりした人権意識とグローバルな視点をはぐくみ、高い志を抱いて社会に貢献する人材を育成する。
- 3 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材を育成する。

2 平成 30 年度の校内研究の取組み

（1）研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

生徒のモチベーション向上のための組織的アプローチ

②テーマ設定理由

平成 29 年度の取り組みの成果もあり、各教員が授業においてさまざまな工夫をしている。しかし現状では個人の授業力の向上に留まっており、今後教科全体での授業力の向上が必要である。そこで、平成 30 年度は教員同士で授業における教科指導方法等を交換し、共有する機会を設けることで、生徒の学習に対するモチベーションをより向上させる授業を展開することができる教員集団を形成していきたいと考えた。

（2）校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

- ・昨年度に引き続いて 4 月に「授業力アップ P T」が組織され、本研修に参加する教員を含む 6 名で研究を進める。
- ・全教員による授業見学から各教科の課題を発見し、全体研修でまとめ、研究授業で改善することで、よりよい教科指導法を研究する機会とする。
- ・今年度は「生徒のモチベーション向上のための組織的アプローチ」をテーマとし、授業見学や教職員研修や研究授業後の事後協議を通じて、授業力向上について考えていく機会とする。

②具体的な取組み

- ・ 8/27(月)～9/21(金) 授業見学週間を設定し、他の先生の授業を見学する機会を設けた。

→感想カードを作成した(記名・見学教科を指定)。

自教科と他教科を最低1回ずつ期間内に見学し、感想カードを提出することを義務付けた。また、その後の校内研修で使用する資料になる感想カードの提出枚数に偏りが出ないように主催者側で見学教科を指定した。

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------|--|
| (○○ ○○) 先生 ★ 平成 30 年度 授業見学 感想カード ★ 1 枚目 | |
| 見学した授業: () 月 () 日 () () 限目 | |
| 科目: (△△) 授業者: () 先生 クラス () | |
| ★見学のポイント★ どのように生徒の学習に対するモチベーションを向上させようとしているのか。 (各項目において、よかったこと・参考になったことを書いて下さい) | |
| 教 材 | |
| 導 入 | |
| 展 開 | |
| まとめ | |
| その他 | |

- ・ 10/1(月) 13:30～14:30 教員全体研修を実施した。
→教科毎にグループを作り、提出された感想カードをもとに各教科の強みや改善点を見つけ出した。
そしてそこから研究授業での強化ポイントを設定し、教科毎に発表・報告した。
- ・ 10/22(月)～11/16(金) 各教科の研究授業期間とし、放課後に各教科で協議をした。
→予め教員全体研修の際に設定した各教科の強化ポイントを記入した事後協議シートを配付し、研究協議ではポイントに絞って考察。その結果から来年度の目標を設定するようにした。



教員全体研修の様子

③取組みの検証方法

- ・教員アンケート

平成 29 年度に用いた職員研修アンケートに、今年度のテーマに関する質問項目を新たに加えて経年変化を見る。

- ・校内研修や、研究授業・事後協議でのワークシート

3 取組みの検証

(1) 校内研究の成果

①様々な先生の授業における工夫を知ることができた。

- ・良い点を全員で共有し、各自の引き出しが増えた。
- ・以前より教科内での情報交換が増えた。
- ・積極的に I C T やアクティブ・ラーニングの視点を授業で取り入れる教員が増えた。

②生徒のモチベーション向上について自教科だけでなく他教科の目線からも意見交換することで、新たな課題を教科で共有することができた。

- ・自教科同士での意見交換での課題発見はもちろんのこと、他教科からの評価を知ることにより、これまでは見えていなかった自教科のうまくいっている授業方法や改善すべき点を発見・共有し、再考察することができた。

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

①授業評価アンケートの全質問項目の学校平均値が 3.19(本研究実施前)→3.24(本研究実施後)と改善がみられた。

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

①7月(本研究実施前)と1月(本研究実施後)に行った職員研修アンケートを比較したところ、全質問項目の肯定的回答の割合が顕著に増加した。

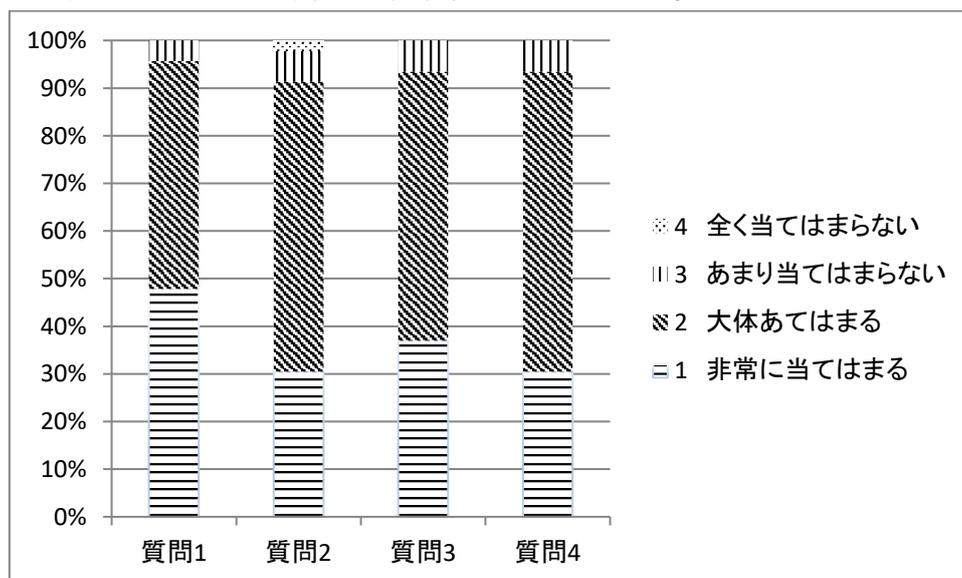
- ・特に今年度のテーマの検証として追加した3つの項目である、項目 14:「生徒の学習に対するモチベーションを向上させるために、教材準備や授業の展開(授業中)において工夫をしている。」において、90.2%から 100%に上昇、項目 15:「授業力向上のために、授業見学を行っている。」において、14.6%から 47.5%に上昇、項目 16:「授業力向上のために、授業の事前または事後に教員同士で意見交換などを行っている。」において、56.1%から 67.5%に上昇した。これらの3項目の結果については、今年度の取組みの成果が出たと考えられる。
- ・一方、経年比較をすると、昨年度末に実施したアンケート結果より、今年度の研修前(7月)の数値が全項目において下がった。これは教員の入れ替わりによるものもあると思われるが、研究・研修で学んだ知識・スキルが教員間で定着するには至っていない面もあると推察される。

| NO | 質問項目 | 7月実施(41名) | | | | | 1月実施(40名) | | | | |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|---------|------------|-----------|-------|-----------|---------|------------|-----------|--------|
| | | 非常に当てはまる | 大体当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない | 肯定的回答 | 非常に当てはまる | 大体当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない | 肯定的回答 |
| | | 割合 | 割合 | 割合 | 割合 | 割合 | 割合 | 割合 | 割合 | 割合 | 割合 |
| 1 | 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしている。 | 17.0% | 63.4% | 19.5% | 0.0% | 80.4% | 20.0% | 67.5% | 12.5% | 0.0% | 87.5% |
| 2 | 授業の中で、目標めあて・ねらいを先生に示す活動を計画的に取り入れている。 | 26.8% | 58.5% | 14.6% | 0.0% | 85.3% | 27.5% | 60.0% | 10.0% | 2.5% | 87.5% |
| 3 | 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている。 | 7.3% | 56.1% | 34.1% | 2.4% | 63.4% | 62.5% | 10.0% | 25.0% | 2.5% | 72.5% |
| 4 | 授業の中で、生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしている。 | 24.4% | 61.0% | 12.2% | 2.4% | 85.4% | 30.0% | 60.0% | 10.0% | 0.0% | 90.0% |
| 5 | 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている。 | 26.8% | 41.5% | 31.7% | 0.0% | 68.3% | 25.0% | 62.5% | 12.5% | 0.0% | 87.5% |
| 6 | 授業において、生徒自らグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。 | 2.4% | 26.8% | 48.8% | 22.0% | 29.2% | 10.3% | 43.6% | 28.2% | 17.9% | 53.8% |
| 7 | コンピュータ等の情報通信技術を活用し、協働学習や課題発見・解決型の指導を行っている。 | 9.8% | 19.5% | 46.3% | 24.4% | 29.3% | 20.5% | 17.9% | 35.9% | 25.6% | 38.5% |
| 8 | 授業で生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやく文章に書かせる指導をしている。 | 2.4% | 31.7% | 46.3% | 19.5% | 34.1% | 5.0% | 37.5% | 42.5% | 15.0% | 42.5% |
| 9 | 生徒に対して、クラス全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えている。 | 4.9% | 31.7% | 31.7% | 31.7% | 36.6% | 12.5% | 25.0% | 42.5% | 20.0% | 37.5% |
| 10 | 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出している。 | 12.2% | 29.3% | 29.3% | 29.3% | 41.5% | 15.0% | 35.0% | 30.0% | 20.0% | 50.0% |
| 11 | 学校生活の中で、生徒一人ひとりのよい点や可能性を見出し、積極的に生徒に伝えるなどしている。 | 19.5% | 56.1% | 22.0% | 2.4% | 75.6% | 12.5% | 67.5% | 20.0% | 0.0% | 80.0% |
| 12 | 授業において、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等の多様な活動に取り組ませることにより、ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行っている。 | 12.2% | 34.1% | 41.5% | 12.2% | 46.3% | 17.5% | 40.0% | 32.5% | 10.0% | 57.5% |
| 13 | 授業において、一人ひとりの学びの多様性に応じて、形成的な評価(学習の過程の中で、次の学習活動が適切で有効に行われるように修正の必要部分を即座に把握するための評価)を行い、生徒の資質・能力がどのように伸びているかを生徒自身が把握できるようにしている。 | 2.4% | 29.3% | 51.2% | 14.6% | 31.7% | 7.5% | 30.0% | 52.5% | 10.0% | 37.5% |
| 14 | 生徒の学習に対するモチベーションを向上させるために、教材や授業の展開(授業中)において工夫をしている。 | 34.1% | 56.1% | 9.8% | 0.0% | 90.2% | 35.0% | 65.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 15 | 授業力向上のために、授業見学を行っている。 | 2.4% | 12.2% | 48.8% | 36.6% | 14.6% | 10.0% | 37.5% | 45.0% | 7.5% | 47.5% |
| 16 | 授業力向上のために、授業の前または事後に教員同士で意見交換などを行っている。 | 17.1% | 39.0% | 29.3% | 14.6% | 56.1% | 27.5% | 40.0% | 30.0% | 2.5% | 67.5% |

②10月に実施した教員研修(グループワーク)後の教員アンケートでは以下のように肯定的意見が多く、教員全体の授業力向上に対する意識も高まってきている。

●質問項目

- 1 全体研修の目的を理解することができた。
- 2 教科間での問題意識や改善策を共有できた。
- 3 自教科に収まらない多角的な角度からの感想が役立った。
- 4 今回の全体研修が今後の授業改善の参考になった。



●自由記述欄に書かれた意見

- ・ペアワークを成功させるコツを知りたいです。
- ・教科内で授業内容の話をするのがあまりなかったので、いい機会になった。
- ・授業ポイントを考える中で、様々な授業のやり方なども聞けて参考になりました。
- ・他教科の授業を見ることで、普段とは異なる視点で授業づくりについて考えるきっかけとなりました。
- ・授業を改善する！ということ意識できました。
- ・実技のくくりが幅広く、ザックリの話であったが、自教科がどう思われているかわかるところもあった。

③12月に実施した学校教育自己診断においても、特に以下の項目において肯定的回答の割合が顕著に増加した。

| 肯定的な回答率が顕著に上昇した質問項目 | ① | ② | ②－① |
|----------------------------|----------|----------|------|
| | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | |
| 校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。 | 61% | 81% | 20%増 |
| 学習指導計画について、各教科でよく話し合っている。 | 65% | 79% | 14%増 |
| 校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。 | 71% | 88% | 17%増 |

平成 29-30 年度の学校教育自己診断の比較

授業研究に組織的に取り組んでいることを教員全体が肯定的に受けとめ、参加している様子が見てとれる結果である。

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

- ・教員全体研修のグループ分けにおいて、体育、家庭科、情報、芸術を実技系教科として1つのグループにまとめた。事前に回収した感想カードをもとに自教科の課題を発見し、改善策を考えて、研究授業で実践するという流れを想定した。また、議論のツールとなる感想カードの枚数を均等化もねらったためである。しかし、実技系教科のそれぞれの特性の違いからこのグループは進行しづらい状況となってしまった。(このグループ以外は円滑に議論ができていた。)
- ・8～9月実施の授業見学は、教員の負担感を考慮しつつ1人2回(自教科と他教科を1つずつ)と設定し、感想カードの提出を求め、催促もした結果、何とか全教員が授業見学を行うことができた。強制力を持たせずに自発的に授業見学を行う環境にはまだ遠いと感じている。

(2) 次年度に向けて

- ・平成 30 年度は

- 教科内で情報交換や公開授業を行う
- 研究授業については、昨年度の特定の教科（英語科）のみの実施から全教科で実施する

という風に、校内の組織的な授業改善を一步前進させるべく内容を変更した。

また「他教科からの意見を取り入れながら、自教科を振り返る」という視点を取り入れて更なる授業改善を目論んだ結果、先述のアンケート結果のように、一定の成果を得ることができた。次年度はさらに教科の枠を超えた（教科横断的な）教員研修・公開授業を計画する。

- ・研究授業について、全教員が同時に見学できることが理想であるので、次年度は研究授業の時間設定にさらに工夫を加えたい。
- ・今年度の研究テーマである「生徒のモチベーション向上のための組織的アプローチ」には、基本に立ち返り、教科や学年といった集団でさまざまな物事を共有する重要性を再確認することに焦点を当てる、という意図がある。これは単年度で完了するものではなく、今後も継続していく必要があるテーマであると考えている。
- ・3（3）①で、平成 29 年度末の教員アンケートと比較して今年度最初の教員アンケートの数値が減少していたことについて述べた。新しい授業の形を模索し、取組みを進めるためには準備も必要であり、年度が変わっても継続して行っていくには相当の労力を要するためではないだろうか。しかし、大学入試改革が進む中、主体的・対話的で深く学ぶ方向へ授業も進化していかなくてはならない。教員同士が互いに刺激を与え合い、モチベーションを上げていくという意味でも、次年度以降も校内研修や研究授業を継続的に進めていくべきであると考えている。

平成 30 年度 校内研修年間実施報告

1 平成 30 年度の目標(テーマ・主題)

| |
|--------------------------|
| 生徒のモチベーション向上のための組織的アプローチ |
|--------------------------|

2 実施日・内容等

| 月 | 日 | 校 内 研 究 計 画 | |
|---------------|--------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 研究推進委員会 等 | 教職員全体研修会 等 |
| 4 | 1 | 職員会議で校長より「授業力アップPT」メンバーを委嘱、 第1回会議（顔合わせと役割分担） | |
| 5 | 24 | 授業力アップPT第2回会議 ・今年度の目標設定 ・今年度の年間計画 ・昨年度の事後アンケートの分析 | |
| 6 | 13 | 授業力アップPT第3回会議 ・今年度の年間計画の詳細決定 ・各種資料作成 | 教員アンケート（1回目）の実施 |
| 8 | 23 | | 教員アンケート（1回目）の結果報告 職員会議で周知 ①8/27～9/21 授業見学期間 ②10/1 教員全体研修 ③10/22～11/16 各教科による 研究授業・事後協議 |
| 8 ～ 9 | 27 21 | 授業見学期間（1人自教科1回、他教科1回以上、感想カード提出） 授業力アップPT第4回会議 ・教員全体研修の最終打ち合わせ | |
| 10 | 1 | | 教員全体研修（13:30～14:30） |
| 10 ～ 11 | 22 16 | 授業力アップPT第5回会議 ・教員全体研修の考察 ・研究授業進捗状況報告 | 各教科研究授業期間 当日の放課後、事後協議 |
| 1 | 7 | 授業力アップPT第6回会議 ・今年度の取組みを総括 | |
| 1 | 24 | 授業力アップPT第7回会議 ・教員アンケートの比較・検討 | 教員アンケート（2回目）の実施 職員会議で今年度の取組総括を発表 |
| 2 | 未定 | 次年度に向けた準備（引継ぎ等） | |

平成 31 年度 校内研修年間計画

1 平成 31 年度の目標(テーマ・主題)

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 教科横断的な授業実践 (仮) 同一もしくは類似したテーマを異なる教科において授業に盛り込む (同時期が望ましい) (例) 社会で学習する内容を英語でも扱う 等 |
|---------------------------------------------------------------------------------------|

2 年間予定

| 月 | 日 | 校 内 研 究 計 画 | |
|---------------|----|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 研究推進委員会 等 | 教職員全体研修会 等 |
| 4 | 1 | | 職員会議で周知 |
| 4 | 未定 | 第 1 回ミーティング ・メンバー確認 ・今年度の目標や活動について | |
| 5 | 未定 | 授業力アップ P T 第 2 回会議 ・今年度の目標設定 ・今年度の年間計画 ・昨年度の事後アンケートの分析 | |
| 6 | 未定 | 授業力アップ P T 第 3 回会議 ・今年度の年間計画の詳細決定 ・各種資料作成 | 教員アンケート (1 回目) の実施 教員アンケート (1 回目) の結果報告 職員会議で周知 (①教員全体研修、②授業見学期間、③各教科による研究授業・事後協議) |
| 7 | 未定 | 授業力アップ P T 第 4 回会議 ・教員全体研修の最終打ち合わせ | 教員全体研修 |
| 8 ～ 9 | 未定 | 授業見学期間 授業力アップ P T 第 5 回会議 ・教員全体研修の考察 ・研究授業進捗状況報告 | |
| 10 ～ 12 | 未定 | 授業力アップ P T 第 6 回会議 ・今年度の取組総括 | 各教科研究授業期間 当日の放課後、事後協議 |
| 1 | 未定 | 授業力アップ P T 第 7 回会議 ・教員アンケートの比較・検討 | 教員アンケート (2 回目) の実施 職員会議で今年度の取組総括を発表 |
| 2 | 未定 | 次年度に向けた準備 (引継ぎ等) | |